社会部会

＜県研究主題＞
　社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案１　　提案者　清田　直紀（横須賀地区）

＜研究主題＞
「関心・意欲・態度」を高めるために
「地域の歴史」学習を導入とした単元計画の作成について
～「横須賀製鉄所」から始まった近代日本～

１　提案内容

（１）主題設定の理由

　中学校学習指導要領「社会」〔歴史的分野〕の目標（４）を達成するためにこの主題を設定した。身近な地域の歴史を取り上げることが、地域への関心を育て、具体性と親近感を持たせながら、わが国の歴史への理解を深めることにつながると考えた。

（２）研究内容

　本提案では日本の近代化を学習する導入として「横須賀製鉄所」を取り上げた。この学習によって、生徒が郷土（横須賀市）の良さを知り、郷土に誇りをもつとともに、健全な郷土愛を醸成しようとした。

①　県中学校教育課程研究会研究主題との関連

　まず、県の研究主題①に関連し、小学校で既習した地域学習を導入にすることで中学校の学習への移行が容易にできると考えた。そこで、横須賀市の社会科副読本をもとに年間計画を作成した。

　次に、県の研究主題③に関連し、生徒に地域・わが国への愛着をもたせ、よりよい社会形成に参画する資質･能力の育成を図るため､指導と評価の一体化を意識し、ワークシートの記述内容による「関心・意欲・態度」の評価をおこなった。

②　年間計画（歴史的分野）における地域の歴史学習の位置づけ

　各単元（時代）の導入では必ず「地域の歴史」を取り扱った。その単元（時代）についての関心・意欲の高まりや持続を単元（時代）の途中と最後に「関心・意欲・態度」の観点で評価した。

③　単元計画（歴史的分野）における「地域の歴史」導入例

　本提案では『近代の日本と世界』の導入として横須賀製鉄所についての学習を２時間扱いでおこなった。

１時間目･･･「郷土横須賀」やその他の刊行物（パンフレット）などを使用してこの時代の横須賀の様子を調べてまとめる作業。

２時間目･･･「横須賀製鉄所」についての諸資料（スライドや VTR など）を活用した授業。

④　本提案の授業化

富岡製糸場の兄弟工場と言われていた横須賀製鉄所について、生徒の興味・関心を引き出す様子を模擬授業形式で行った。何を作っていたか、時間労働の導入など日本初の取り組みが横須賀製鉄所にはあったこと等を紹介した。富岡製糸場との比較から、なぜ世界遺産にならないのかといった疑問も引き出した。

⑤　評価規準

（ア）評価規準（関心・意欲・態度）

本提案では横須賀製鉄所についての学習を通じて、地域の歴史や近代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしているかを評価規準とした。

（イ）評価の方法

「１００字振り返りシート」に授業を通して学んだことを書かせ、記入内容について評価した。

（ウ）学習状況の判断の基準

「おおむね満足できる」状況（B）を設定し、それを超えるものを「十分満足できる」状況（A）とした。

B･･･近代（歴史）の学習について感心をもち、意欲を高めている。郷土歴史に感動し、愛着を持っている。

A･･･Bに加えて、自分自身の行動と結びつけて考えている。

（３）成果と課題

本提案の成果として、おおむね生徒の「関心・意欲・態度」の高まりが見られたほか、副読本を各単元の導入で有効活用できた。

一方で、郷土愛を育む学習はできたが、近代の学習の動機付けとしては不十分な面があり、地域学習を各単元の導入で取り入れるべきか適切な単元をしぼって取り入れるべきか検討する必要があるという課題もでてきた。

2　協議内容

「関心・意欲・態度に対する評価のあり方」について協議した。本提案では授業を受けた生徒の感想から関心・意欲・態度を評価したが、書かせるテーマを授業者側が設定することや、今後の生徒の活動につながっていく記述であるか等の明確な評価規準を設定する必要があったのではないかという意見が出た。

3　まとめ

学習指導要領との関わりをみても本提案の地域教材の扱いは適切である。また、各市町村教育委員会が作成している副読本を活用することで効率よく学習を進めることができた。本提案では地域教材を導入で扱ったが、導入以外で取り上げるのも良い。小学校では地域学習を深く行っており、中学校は小学校とのつながりを意識してすすめていかなければならない。また、評価の面ではより正確に「関心・意欲・態度」を見取るために、本提案で実施したこと以外にも手立てを講じ、その妥当性を検討していく必要がある。

提案２　　提案者　佐々木　優（湘南三浦地区）

＜研究主題＞
『社会的な見方・考え方を養う、小中連携を意識した授業づくり』

１　提案内容

（１）　主題設定の理由

小学校社会での歴史的分野では、歴史上の人物を何人か取り上げその人物について学習を進める形態になっている。中学校では小学校で学んだ人物についての学習を大きな歴史の流れの中で位置づけ、歴史を大観させたい。そこで、小学校での学習成果が大きな歴史の中でどのように位置づけられるのか、中学校での学習の懸け橋としての授業、歴史の大きな流れをつかむきっかけとなるような問いかける授業を行うこととした。

また、提案者の勤務地である逗子市では、小中の教員が合同で教科指導に関する研究会を行っていることもあり、小学校での学習内容や学習形態についての情報が得やすい環境にある。

そこで、研究主題にある小中連携を意識した授業づくりの観点から、小学校と中学校で同内容の授業を実施することとした。

（２）　提案内容

①　提案の概要

歴史を学ぶとはどういうことなのか。現代とどのようにつながっているのか。小学校で学んだ人物に関する学習内容が細切れにならないように注意を払った。歴史を大観する際のキーワードを『権力＝支配（みんなから集めたお金を自分の思い通りにできる力）』と定義して歴史の大まかな流れを確認する授業を計画した。すなわち、先に定義した『権力＝支配』がなかった時代から一か所に集中した時代へ、さらに国民一人ひとりにそれが移行した時代へという過去から現代までの歴史の大きな流れを大まかにとらえる授業を行った。提案者からの説明の後、研究会参加者を児童・生徒に見立て、提案者が実際に行った授業を再現する模擬授業を行った。

②　成果と課題

ア　成果

児童・生徒の感想から、『権力＝支配』というキーワードに基づいた学習を通して人物を歴史の中に位置づけながら歴史を大観し多面的、多角的な見方ができるようになっていると感じた。

イ　課題

小学校で盛んに行われている班活動やグループ学習の学習形態を、未だ講義形式が多いと思われる中学校での学習に生かしながら小中連携を深め、生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりをしていかなければならないと感じた。

２　質疑応答など

（１）小学校で学んだ人物の学習成果をつないで大観させる際に留意していることは何か。

→小中の違いである通史学習を常に意識して授業構成を考えている。小学校での学習では、歴史が「ぶつ切り」のようになっていると考え、大きな流れを大観する方法のひとつとして考え、常に現代とのつながりを意識して授業を行っている。

（２）今回の授業を今後にどのように生かすのか。「支配」という小学生には難しいと思える語句を切り口とした理由は。

→各時代の特色を学習する際に活用している。歴史学習を貫くものとして「支配」という点を重点化したが、むろん他にも方法はあると考える。

３　助言

実践的、体験的な提案で新鮮さがあり、学びが多かった。中学校の社会科では、小学校での「ダンゴ型」の歴史学習に通史という「串」を通す。その視点の提案として興味深いものだった。今後の中学校社会科が意識していくべきは、小学校での学習内容だけではなく、学習方法の工夫を取り入れていくこと。小学校では班活動、調査、発表といった「“動”の授業」、動きのある、考える授業がどのよう学校でも取り組まれている。こうした学習方法の連携のなかで、「憶える社会科」から「考える社会科」になっていくべきである。

４　まとめ

グループ協議

『基礎的・基本的な知識及び技能を効果的に習得するために小中連携をどのように図ったらよいか』

（１）A グループ

小中教員が相互交流し、小中を通したカリキュラムづくりという意識が必要。

（２）B グループ

小中合同研修会などを行っている地域を参考に、教員の相互交流の促進が必要。

（３）C グループ

小中が連携しての研究授業や、中学校教員の出前授業の実践を積み重ねていく。

（４）D グループ

小学校での学び方を中学校での授業に生かす。

（５）E グループ

小中の違いをそれぞれの長所としてとらえ、互いに生かせるような研修が必要。

（６）F グループ

小学校では「調べ学習」や「発表」が活発。中学校でもそうした学びを取り入れる。

５　指導助言（県教育委員会子ども教育支援課）

提案１では、関心・意欲・態度の評価に関するものであった。何をどのように評価するのかといった、指導のねらいの明確化が重要である。提案２では小中連携に関するものであった。中学校はもっと小学校の学習内容や学習形式といった学びの実態を知り、学びの連続性を意識した、見通しを持った指導を行うことが重要である。

今回の提案は新しい切り口で新鮮であった。今回の提案を各地域に発信し、より良い指導の在り方を研究してほしい。